



## 4年間を振り返り、新たな4年間に期待する

中山洋司

花と平和のミュージアムの活動は、2014年11月8日に開館され、「恵泉教育の礎となった教育資源の継承・研究・教育成果の発信」と「広く平和を求める人たちの交流処となる活動」を目的に4年が経りました。

2014年に企画された中期計画では、4つの事業を計画しました。各々の実施状況と今後について述べます。

アーカイブ事業は、創立者河井道先生と学園の歴史に関する資料を、史料室で目録としてまとめ公開されました。しかし、寄贈された3名(写真家福島菊次郎氏、ハンセン氏病研究者荒井英子氏、南北問題研究者村井吉敬氏)の貴重な平和に関する資料は、遅々とした歩みでしたが、新中期計画でも継続し完成させることが大切と思われます。

展示事業は、学園内の常設場所での恵泉の「たからもの」の展示や、期間限定で特別展示を行い地域への公開を行いました。特に福島菊次郎写真展や武田美通「鉄の造形」は、平和の重要性をリアルに想像できる物として、外部からの展示要請もあり他機関との連携の源となりました。

教育研修事業は、ガイド養成講座を開始しボランティア育成に向けた企画はしたものの、担当者の削減や財政事情等から頓挫しております。新中期計画では、学生やボランティアの活用等も含めて、いかに進めていくか知恵を出し合う必要があると思われれます。

連携ネットワーク事業は、遠くは沖縄県、近くは川崎市平和館等、多くの団体や機関と保管資料の貸し出しや人材派遣等を通して連携がなされました。また、史料室が目録を発行したことから他機関の研究者からの問い合わせも増えてきました。

現在実務委員会のメンバーは、全員が本務をしながら兼務をしている状況です。あまり無理をせず、しかし皆さんで叡智を出し合ってよき方法を見出し、例え牛歩のようであってもともに目的に向かって歩んでくことを期待しています。

(学園長・花と平和のミュージアム館長)

## バラ園が伝える想い



peace

澤田みどり

大学南野キャンパスにある「恵泉ワイルドローズガーデン」づくりは、2012年に敷地にはびこるチガヤという宿根草の雑草取りから始まりました。野村和子先生(中高短大卒)による設計とご指導の下、大学生、同窓生、野村先生の公開講座の受講生の方々、大学教職員と一緒に作業をし、年々見応えのあるガーデンに変化を続けています。多くの方々からのご寄付、恵泉フェロシップからのご支援、大学研究機構研究費により苗を増やし、トレリス、ベンチ、アーチと徐々に形が整ってきました。無化学肥料無農薬で野生種のバラを育て、自然の営み、自然との共存、持続可能な環境づくりを目指し、多摩の地域に合ったバラ園を紹介していくこの試みは、花と平和のミュージアムらしい事業の一つと思います。野村先生が毎月のように千葉から片道3時間近くかけて足を運んでくださり、毎年バラの文化、歴史、育種などについて楽しい講演をしてくださっています。河井先生をご存知の野村先生と共にこの活動に関われることは学生にとっても何事にも代えがたい経験でもあります。バラ園は、幅広い年齢層で共に学ぶ体験学習の場、社会教育、生涯学習の場、地域の方と共に楽しむ地域貢献の場、ミュージアムの活動に関わる機会を与えてくれる場など様々な機能をもっています。一般的な豪華に花が咲き乱れるモダンローズ中心のバラ園ではなく、学びのバラ園、未来のバラ園です。

11月2日創立記念式典で2017年度のノーベル平和賞を受賞された国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」ICAN国際運営委員をされ、永年本学非常勤講師として教鞭を取られている川崎哲先生のお話をお聞きし、平和について自分たちにできることは何だろうと思いを馳せながら南野に行くと、「ピース」が凜として一輪花を咲かせて迎えてくれました。今も目に焼き付いています。皆様也多摩へいらした是非足を運んで下さい。たくさんの方の想いのこもった、多くの事を教えてくれる小さなガーデンです。

(社会園芸学科教員)

## Keisen Wild Rose Gardenの歩み (2012~2016)

2012年 9月草(チガヤ)取り

2013年 6月北アメリカ野生種の植え付け  
12月ヨーロッパの野生種の植え付け

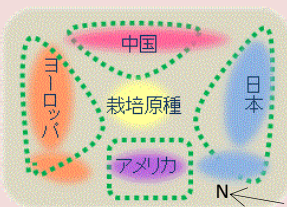
2014年 2月栽培原種(現代バラの原種)の植え付け 4月入口アーチとガゼボ設置  
5月ヨーロッパの野生種の植え付け

2015年 1月中国の野生種の植え付け  
2月日本の野生種の植え付け 3月パーゴラ設置

2016年 1月ヨーロッパの野生種の植え付け  
2月日本の野生種の植え付け 2月アーチ設置  
3月北アメリカの野生種の植え付け  
タイムの植え付け  
4月中国の野生種の植え付け 5月トレリス、ベンチ設置  
6月日本の野生種の植え付け  
11月オベリスク設置



パーゴラ



アーチ



作業風景



ベンチ



手前にオベリスク

# スプリングフェスティバル(2018年5月26日)の企画展報告

## 豊田直巳写真展「叫びと嘔き福島7年間〜尊厳の記録と記憶」

今回のミュージアムの企画の一つ「恵泉と福島7年」のテーマのもと、豊田直巳氏の写真展が南野キャンパス・ラーニングコモンズで開催されました(2018年5月22日5月26日6月1日まで)。写真展会場では豊田氏自身によるギャラリートークもあり、開催期間に約400名の入場者がありました。寄せられたアンケートには「ここに来て写真を見なければ分らなかったことが沢山あった。」「ニュースでしか見られないので被災者の状況を福島を背景に知れてよかった」など多くの感想が寄せられました。またスプリングフェスティバル当日には、豊田氏と野田雅也氏との共同監督によるドキュメンタリー作品「遺言一原発さえなければ」も上映されました。



展示場入口には「恵泉と福島7年」の活動年表パネルを展示しました。



今回の「福島菊次郎展」は「私のおすすめの一枚」を選んだ方のコメントとともに展示する趣向をこらした企画展でした。

今年度より常設展示の見学者も受け付けている武田美通氏の「鉄の造形」作品展も昨年引き続き開催しました。



「河井道展示」はA棟のエントランスで開催。今回はプリンマー大学留学中のスクラップブックも展示しました。

## 「花と平和のミュージアム」活動記録

2018年

4月

「角田葉子ボタニカルアート移動展」多摩市立グリーンライブセンター (G L C) にて本年度も展示の継続を決定  
「テッポウユリ」展示

図書館入口展示ケース内にボタニカルアート「ベニドウダン」展示

4月9日武田美通「鉄の造形」作品について北海道新聞より取材あり

4月12日武田美通「鉄の造形」作品の見学者あり(団体5名 川崎市宮前区平和のための原爆展開催実行委員会)

4月15日『東京民報』に武田美通「鉄の造形」作品常設展示の記事掲載

4月16日武田美通「鉄の造形」作品の見学者1名あり(「沖縄展」打ち合わせのため)

5月

「角田葉子ボタニカルアート移動展」(G L C)「ベニドウダン」展示

図書館入口展示ケース内にボタニカルアート「タチバナ」展示

5月22日豊田直巳写真展「福島7年間〜尊厳の記録と記憶」開始(6月1日まで)

5月26日スプリングフェスティバル

映画上映「遺言 原発さえなければ」(野田雅也・豊田直巳共同監督 2013年)

「恵泉と福島7年」パネル展示

福島菊次郎展「福島菊次郎とは誰か」

武田美通「鉄の造形」作品展「戦死者からのメッセージ」

河井道展示「世界を仕事場として」

5月31日バラ園講演会(講師:野村和子氏 NPOバラ文化研究所理事)

6月

「角田葉子ボタニカルアート移動展」(G L C)「タチバナ」展示  
図書館入口展示ケース内にボタニカルアート「ノハナショウブ」展示

6月12日『北海道新聞』朝刊に武田美通「鉄の造形」作品についての記事掲載

7月

「角田葉子ボタニカルアート移動展」(G L C)「ノハナショウブ」展示  
図書館入口展示ケース内にボタニカルアート「スカシユリ」展示

8月

「角田葉子ボタニカルアート移動展」(G L C)「スカシユリ」展示  
図書館入口展示ケース内に角田葉子氏の活動について展示し、ボタニカルアート「レンゲツツジ」「キキョウ」、ボタニカルアート関係の図書館蔵書も若干展示

8月3日

「日本科学者会議東京支部調歩科学談話会」参加者の見学のため、古典籍(『本草図譜』『草木図説』『両地秋』『松葉蘭譜])福島菊次郎写真作品(「原爆と人間の記録」1978)を展示(於:南野ラーニングコモンズ)同展示は8月8日まで継続、そのあいだ「福島キッズ」の参加者も見学した

8月14日~19日

沖縄県立美術館県民ギャラリーにて武田美通「鉄の造形」作品展開催、入場者1700人(後援)

## Takaramono Close up!



### 『本草図譜』(ほんそうずふ) 6-8巻 岩崎灌園(かんえん)著

1830(文政13)刊



11月より図書館に展示中

『本草図譜』は、「日本最初の彩色植物図譜」といわれています。描かれた草木種図は1900種以上、5巻から96巻、全92冊が刊行されました。「花と平和のミュージアム」が所蔵しているのはその6巻から8巻です。配本は予約制でごく少数(当初は44部)であったため現在まで残るものは稀観本といえます。5巻から10巻のみ木版方式でしたが、それ以外は原本の手写しによるものです。ミュージアム所蔵の6から8巻は木版ですが、彩色も希望者のみに行うやり方でした。

『本草図譜』の著者、岩崎灌園(1786-1842)は江戸下谷生まれの下級武士でしたが、本草学を学び、絵の才を幕府にも次第に認められ、幕府の書物制作にも関わることになりました。20歳ごろから『本草図譜』の制作に着手し、20年余の歳月をかけ43歳で完成。『本草図譜』の配本は彼の死後も息子に受け継がれました。『本草図譜』の中心を占めるのは実際の植物の写生による植物図ですが、他に西洋の「花譜図」から引用したものもあります(図①)。来日中のシーボルトにも会見しており、彼の肖像画も残っています(展示写真右上)。シーボルトの様な外国人も含めて、将軍から市井の人々まで様々な協力を得て完成させたのが『本草図譜』でした。

「花と平和のミュージアム」ニュースレター 発行日 2018年12月1日 発行・編集 恵泉女学園 花と平和のミュージアム

多摩キャンパス窓口 恵泉女学園大学 研究機構事務局 〒206-8586 多摩市南野2-10-1 TEL.042-376-8332 URL:http://www.keisen.ac.jp

「花と平和のミュージアム」に対し、ぜひご意見、ご希望などお寄せください。これからの活動の貴重な糧とさせていただきます。恵泉に連なる全ての方々よりお待ちしております。

薬料ガーデンなどサテライトに関するご質問、ご要望等でも結構です。お問い合わせ先 E-mail:museum@keisen.ac.jp